

名古屋大学創立50周年記念事業

現在、名大では、創立80周年(2019年)、豊田講堂・名大祭60周年(2020年)、創基150周年(2021年)と続く一連の周年の記念事業・行事を、「プロジェクトNU MIRAI」として行っています。

これまでの名大全体の周年記念事業の中では、30年前の下記のような「名古屋大学創立50周年記念事業」が、とりわけ大規模に行われました。

特筆されるのは、学術振興基金の創設です(1990年)。これは、学術研究助成と、教職員・大学院生の海外派遣、研究者・留学生の海外からの招聘、国際会議開催の補助などの学術交流助成を目的としたものです。

次に、記念施設の建設が挙げられます。豊田講堂の東側に、ホールや宿泊施設などからなる「名古屋大学シンポジオン」が建てられました(1992年竣工)。

名古屋大学史の編纂・刊行事業も行われました。全学的な編纂体制が生まれ、『名古屋大学五十年史』4冊、

『写真集 名古屋大学の歴史 1871~1991』1冊を、1989(平成元)年から1995年にかけて刊行しました。

これらの運用資金や事業費は、寄附によって賄われました。寄附を集めたのは、「名古屋大学創立50周年記念事業後援会」です。同後援会は、1987(昭和62)年に発足した学外組織で、その事務局は名大本部事務局内に置かれました。会長には名古屋商工会議所会頭が就任し、顧問(発足時6名)・副会長(発足時11名)には、愛知県知事・名古屋市長のほか東海地域を代表する企業人が名を連ね、理事は156名、評議員は1,295名(いずれも発足時)に上りました。

寄附金の募集は、1987年9月から1989年8月までの2年間にわたって行われました。募金活動に際しては、名古屋商工会議所から多大な尽力を得ました。お寄せいただいた寄附金は、当初の目標額12億円をはるかに上回る約17億円に達しました。



- 1 竣工当時の名古屋大学シンポジオン。現在は、2007年の改修・増築工事により、豊田講堂と一体化している。
- 2 「名古屋大学五十年史」通史一、二(1995年刊行)。同部局史一、二は1989年に刊行されている。
- 3 創立50周年記念式典(1989年11月9日)。学内外の関係者約1,500名が列席した。記念行事として、式典・祝賀会・学術講演会・部局行事が行われたが、これらの経費には、学内や名大生協の募金による寄附金約3,386万円が充てられた。
- 4 豊田講堂前に設営された記念祝賀会の会場(記念式典と同日に開催)。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。



ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室)あて(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp)をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちら

名古屋大学基金

<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

